

## 第2回岩手県広域サイクリングルート検討会議 議事概要

### 1 日時

令和5年6月22日（木） 14時～16時

### 2 場所

岩手県民会館 4階 第2会議室

### 3 出席者

別添出席者名簿のとおり

### 4 議事

- (1) 岩手県自転車活用推進計画の進捗状況について
- (2) 広域サイクリングルートの素案について
- (3) 広域サイクリングルートの検討スケジュールについて

### 5 配布資料

- ・ 次第
  - ・ 出席者名簿
  - ・ 配席図
  - ・ 岩手県広域サイクリングルート検討会議設置要綱
- 【資料1】 岩手県自転車活用推進計画の進捗状況について
- 【資料2】 広域サイクリングルートの素案について
- 【資料3】 広域サイクリングルートの検討スケジュールについて

### 6 会議結果

#### ○議事

#### (1) 岩手県自転車活用推進計画の進捗状況について

- ・ 事務局から資料1について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 道の駅におけるサイクリスト受け入れ環境の整備とは、具体的にどのような内容か。

⇒ いわてサイクルステーションの登録要件にある、トイレ、ベンチ等の休憩所、サイクルラック、自転車修理用工具、空気入れポンプ等が無償で利用できる環境を整備するもの。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ いわてサイクルステーションに登録された道の駅が、目標施策の指標の対象となる認識でよいか。

⇒ そのとおりである。

## (2) 広域サイクリングルートの素案について

- ・ 事務局から資料2について説明。

<意見等> ※ 「⇒」：事務局回答

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 広域サイクリングルート図で、各ルートが隣り合っている区間は、同一区間での設定を想定しているのか。  
⇒ そのとおりである。第3回検討会議では、具体的な路線を提示したい。

(国土交通省東北運輸局観光部 木内観光地域振興課長)

- ・ 設定方針⑧について、宿泊施設の設置間隔は60kmごとでないとナショナルサイクリングルートに登録されないのか。また、サイクリストが乗る自転車は高価であるため、できる限り室内に持ち込みたいといった要望も想定されるが、そういった自転車利用者向けのサービスを提供する宿泊施設のみを対象とするのか。  
⇒ ナショナルサイクリングルートは、宿泊施設が“概ね”60km間隔で設置されていることが指定要件として定められている。ルート沿線の宿泊施設は、受入環境等も含めて、今後調査していきたい。また、いわてサイクルステーションは、現時点で約60件登録されているが、地域により空白地帯も存在するため、宿泊施設と合わせて、今後、県側から候補になり得る施設や地域に働きかけていきたい。

(国土交通省東北運輸局観光部 木内観光地域振興課長)

- ・ サイクルステーションの登録にあたっては、休憩や食事ができる施設を登録する等、サイクリストが地元にお金を落としてくれるような工夫をしてほしい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 飲食施設にサイクルステーションを設けることは重要である。宿泊施設も同様だが、サイクリストの受け入れ環境が整っていない場合は、先進地域のノウハウを取り込むといった工夫が必要である。また、サイクリングマップに各施設の受け入れ環境有無を示せれば、より安心してサイクリングを楽しめるのではないかと。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ サイクリストとドライバーの飲食に対する認識の違いを理解しておくことよい。サイクリストは、約1時間毎に補給食を摂取するため、補給食が手に入る施設が一定間隔が必要である。日本はどこにでもコンビニエンスストアがあるイメージを持つ外国人は多いが、実際はそうではない。マップにはサイクリスト向けの施設立地がわかるようにしてほしい。  
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 設定方針⑥について、トンネル内の照明や路面状況も、サイクリング時の安全性や快適性に大きく影響するため、追加してほしい。  
⇒ 具体的な路線を設定するには、道路管理者と協議のうえ、安全なルートを選定していきたい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 市町村の自転車活用推進計画の策定を支援する際には、広域サイクリングルート  
の検討と連携していくことが重要である。ネットワークの連続性や課題区間の解消  
等、県と市町村で面的に整備を進めていければよい。

(岩手県商工会連合会 内金崎内金崎自転車商会代表)

- ・ トンネル内の走行に関して、釜石市の天神トンネルや大槌町の古廟坂トンネル  
は、走行時に危険を感じるとの声を耳にする。課題区間は、サイクルトレイン等の  
公共交通機関を利用して回避してもらうのも1つの案である。また、大槌町の吉里  
吉里トンネルでは、トンネル内の歩行者・自転車通行を周知する押しボタン式の注  
意喚起看板があり、有効な対策事例だと思う。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ ドライバーにトンネル内の通行者を確実に視認してもらうには、自転車の反射板  
やライトに加えて、吉里吉里トンネルのような注意喚起対策を組み合わせることも  
重要である。  
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(岩手県商工会連合会 内金崎内金崎自転車商会代表)

- ・ テーマ・ストーリー案は、特定の観光資源を特出しせず、通過地域の観光地や景  
勝地、宿泊施設を一覧表で掲載したほうが、サイクリストにとってわかりやすいの  
ではないか。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 各地域の魅力を示すことで、食事や宿泊の場所も決定されやすくなるのでよい考  
えだと思う。整備マニュアルを検討する際は、安全性を考慮したうえで、現地での  
案内方法等を整理できるよい。

(岩手県商工会連合会 内金崎内金崎自転車商会代表)

- ・ サイクリングマップは、多言語対応かつ、サイクリストにとって利便性の高いサ  
イズ・素材であることが望ましい。  
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(岩手県商工会連合会 内金崎内金崎自転車商会代表)

- ・ サイクリングルートを設定した後は、基幹ルートおよび地域ルートでテスト走行  
を行ってはどうか。県と市町村が連携してモニタリングすることで、より良いルー  
ト設定が行えると考える。  
⇒ 県と市町村で一体となって検討していきたい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 委員の皆様や地域の方々とテスト走行やワークショップを開催してみるのもよい  
と思う。盛岡市では親子で楽しむサイクルイベントや、健康を意識したサイクルラ  
イドのイベントを実施している。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ ルート確定前にテスト走行を行い、参加者の意見を聴取することも重要である。  
実施する際にはぜひ声をかけてほしい。

(公益財団法人岩手県観光協会 田丸専務理事兼事務局長)

- ・ コロナ禍を経て、サイクリングへの関心が高まっており、海外から個人旅行でのサイクリング関連の問合せが増加していると聞いている。観光協会で作成している観光マップに、いわてサイクルステーションの情報を掲載することも検討したい。ルート素案に関して、気仙沼駅のゲートウェイの設定経緯、宮城県内の区間の整備方法について、確認したい。また、東ルートの北端は、八戸駅をゲートウェイに設定することも考えられるのではないかな。
- ⇒ 気仙沼駅は、宮城県のモデルルートである「震災復興・伝承みやぎルート」との連携を想定して、ゲートウェイ候補地に設定した。昨年度から宮城県と協議を進めており、今年度からは、ルートの整備方法等も含めて具体的な協議ができればと思う。東ルートの北端については、青森県側がルート未設定のため、今後、青森県と調整・検討していきたい。

(国土交通省東北運輸局観光部 木内観光地域振興課長)

- ・ サイクリストは、ルート延長に加えて、獲得標高も考慮のうえ、当日の走行ルートを決める人が多いと思う。サイクリングマップに標高を示すことはできるのか。
- ⇒ 他地域での事例も参考に、表示の仕方を検討していきたい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 二戸駅は新幹線の停車駅だが、ゲートウェイ候補地に設定していないのか。
- ⇒ 候補の1つではあるので、検討していきたい。

(公益社団法人岩手県バス協会 菅原専務理事)

- ・ ルートの全てを自転車で回ることを想定しているのだろうが、自転車が壊れたりした際は、他の交通機関を利用するのではないかな。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ バス路線であればバスに乗って帰るが、自転車を車内に持ち込めない場合は、自転車をどこかに置いて、後日回収しに行く。交通機関が全くないルートであれば、困るかもしれない。ただ、サイクリストは事故さえ遭わなければ、自転車が走行できなくなるほどの故障をすることは極めて珍しい。

(公益社団法人岩手県バス協会 菅原専務理事)

- ・ サイクリングマップに、交通機関の主要な乗り換えポイントを掲載するのはどうか。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 加えて、個々の交通手段に誘導する案内もあればいいと思う。鉄道であれば、ただ乗るだけでなく、車窓からの景色を楽しみながら帰るといった利用方法も考えられる。サイクリストは、個々の観光地だけでなく、走行ルートの景観や雰囲気も重要視していると思う。

(三陸鉄道株式会社 橋上旅客営業部長)

- ・ 三陸鉄道では、輪行袋に入れての乗車を基本としているが、朝夕の混雑時以外で、前日までに連絡を頂ける場合のみ、自転車をそのまま持ち込み可能としており、昨年度は20件程度の問い合わせを頂いた。電話は日本語のみの対応であるが、英語での対応も今後検討したい。

(東日本旅客鉄道株式会社：渡辺副課長)

- ・ JR東日本では、輪行袋に入れての乗車のみ対応している。サイクリストの方は、輪行袋を常に持ち歩いているのか。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ 使用する予定があれば、輪行袋を持ち歩く。

(岩手医科大学教養教育センター ホップス教授)

- ・ サイクリングマップに、自転車店も掲載してほしい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ 市街地部は自転車店が集中しているため、別添資料とする等、見せ方に工夫が必要である。  
⇒ 今後の検討の参考としたい。

(国土交通省東北地方整備局南三陸沿岸国道事務所 岩淵副所長)

- ・ 設定方針⑥について、ルート安全性は非常に重要と考えている。沿岸部は自動車交通量が多い区間や歩道狭小区間が点在しているため、具体的な路線を設定する際は考慮してほしい。  
⇒ 今後、道路管理者と調整・検討していきたい。

(岩手県立大学総合政策学部 宇佐美准教授)

- ・ サイクリストは、路肩ではなく車線内を走行する人が多い。道路交通法等の規定に則り、安心して走行できるルートを設定できれば良い。なお、他地域の整備形態と大きく異なる場合は、利用者の混乱を招く恐れがあるため、留意して検討してほしい。  
⇒ 今後の検討の参考としたい。

### (3) 広域サイクリングルートの検討スケジュールについて

- ・ 事務局から資料3について説明。

<意見等>

- ・ 特に無し。

### ○その他

- ・ 特に無し。